

# 感染症発生動向調査委員会報告 10月

## 今月のトピックス

細菌性赤痢の感染が同一家族内に認められました。  
流行性耳下腺炎が過去5年間との比較では多めです。  
病原体定点からインフルエンザA香港が3件検出されました。  
RSウイルス感染症の報告が多めです。

## 全数把握疾患

平成22年8月23日から平成22年9月26日まで(平成22年第34週から第38週まで。ただし、性感染症については平成22年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成22年 週 - 月日対照表

第38週	9月20～26日
第39週	9月27～10月3日
第40週	10月4～10日
第41週	10月11～17日
第42週	10月18～24日

### < 細菌性赤痢 >

10月の報告数は、28日現在で3件です。1件はフィリピンでの感染と思われませんが、2件は、渡航歴のない家族例です。疫学調査の結果と発症日より、家族内感染も疑われます。細菌性赤痢は、10～100個と少ない菌量でも感染するので、二次感染も認められます。感染予防としては、食材の十分な加熱と石鹼による手洗い励行のほかに、海外では更に生水を避け、渡航先の流行状況の把握が大切です。海外渡航のご予定の方は、こちらを御覧ください。

外務省 海外安全HP <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

また、細菌性赤痢についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所HP <http://idsc.nih.go.jp/disease/shigellosis/2009sokuho.html>

### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

10月の報告数は、28日現在では9例5事例です。感染源が特定された例はありませんでした。

発生時の対応につきましては、こちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所HP [http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/inf\\_c0157\\_guide.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/inf_c0157_guide.html)

### < デング熱 >

10月の報告数は、28日現在で1例です。インドネシアでの感染と思われれます。ウイルス型は2型でした。国内での報告数は、平成21年には92例でしたが、22年では10月第41週(10月17日)で204例であり、過去10年間でも最大の報告となっています。デング熱についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所 デングウイルス感染症情報 <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>

### < A型肝炎 >

10月の報告数は、28日現在で1例です。韓国での感染と思われれます。

A型肝炎の国内状況についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/368/inx368-j.html>

### < アメーバ赤痢 >

10月の報告数は、28日現在で4例です。全て男性でした。

アメーバ赤痢に関してはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所HP <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>

### <急性肝炎(B型)>

10月の報告数は、28日現在で1例です。

性行為による感染と思われます。B型肝炎に関しては、こちらを御覧ください。

国立感染症研究所HP [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/K04\\_15/k04\\_15.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/K04_15/k04_15.html)

### <HIV感染症>

10月の報告数は、28日現在で3例です。すべて男性であり、すべて性行為感染と思われます。

全国でも感染者の88%が日本国籍男性であり、日本国籍男性のHIV感染者のうち同性間性的接触(両性間性的接触を含む)によるものは74%です。

HIV感染症に関しては、依然として治癒に到る治療法が無い現状の中で、日本人男性の同性間での性的接触による感染は増加しており、今後感染予防と早期発見の更なる対策が必要です。

平成21年の現状についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/366/tpc366-i.html>

### <麻しん>

10月の報告数は、28日現在で4例です。すべて臨床診断によるものです。2例にワクチン接種歴はありませんでした。

麻しんは、重篤な後遺症を残すことがあり、時には死にいたることのある疾患です。対象年齢児への確実な予防接種の実施が望まれます。

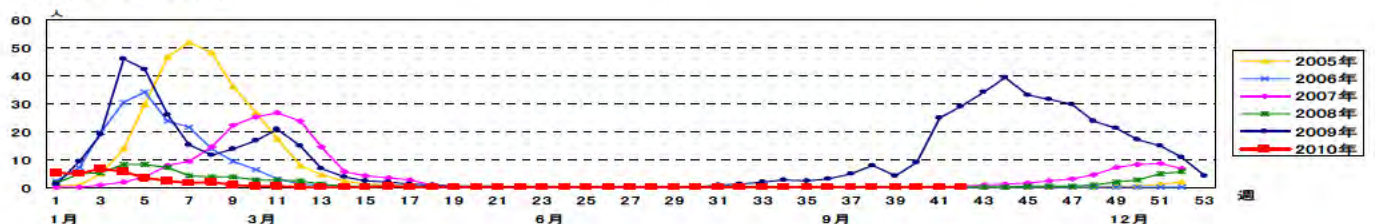
## 定点把握疾患

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

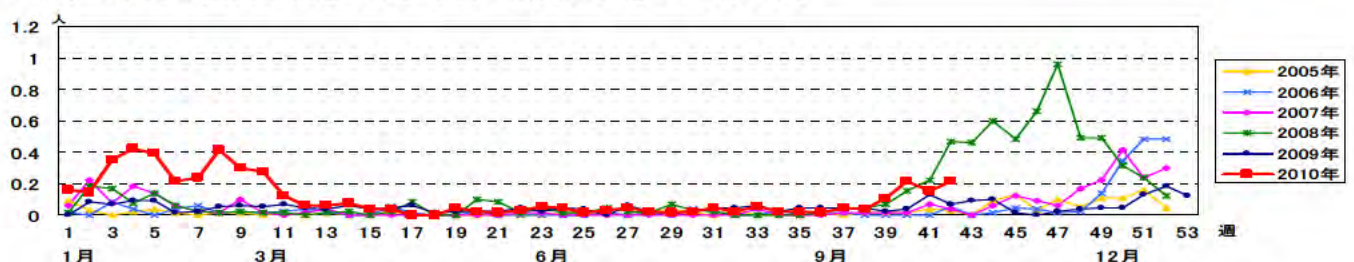
### <インフルエンザ>

第42週の定点あたりの報告数は0.12でした。市内の届出は15件あり、うち14件が迅速キットでA型でした。定点あたりの報告数は、全国でも0.12、神奈川県域(横浜、川崎、相模原を除く 以下県域)では0.12、川崎市では0.11、東京都では0.19と何れも低い数値です。第40週に、沖縄県が定点あたり1.16と、流行の目安である「1」を超えましたが、第42週には0.76と「1」を下回っています。市内病原体定点から、A香港が3件検出されています。



### <RSウイルス感染症>

第42週の定点あたりの報告数は0.20でした。行政区別では港北区と中区が、いずれも1.00と少し高めです。全国では0.34、県域0.15、川崎市0.06、東京都0.18でした。RSウイルス感染症は、インフルエンザと並ぶ冬季の小児の重要な疾患です。今後の動向に注意が必要です。

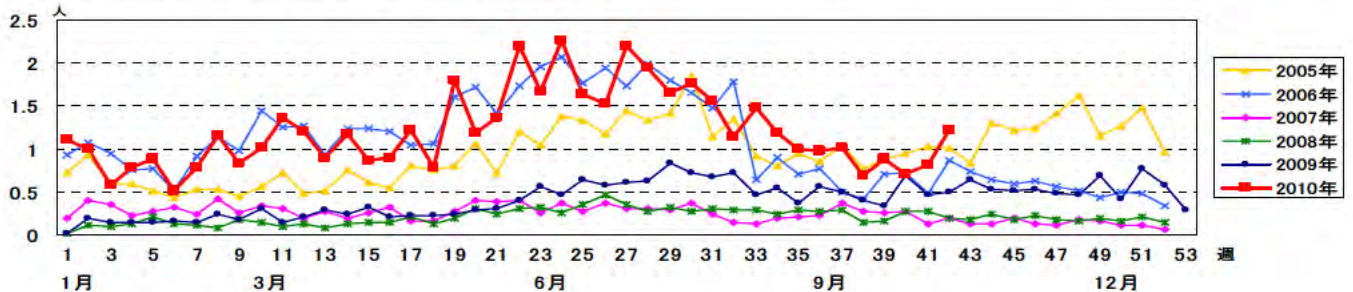


### < 感染性胃腸炎 >

第42週の定点あたりの報告数は3.00でした。行政区別では瀬谷区が10.33、磯子区が5.33、旭区と緑区が5.00と少し高めです。全国では3.70、県域4.30、川崎市5.33、東京都4.36でした。

### < 流行性耳下腺炎 >

第42週の定点あたりの報告数は1.21でした。過去5年との比較では高めに推移しています。全国では1.21、県域1.11、川崎市1.27、東京都0.47でした。



### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

9月は、性器クラミジア感染症は男性15例、女性9例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性9例、女性9例です。尖圭コンジローマは男性5例、女性3例、淋菌感染症は男性13例、女性4例が報告されています。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### < ウイルス検査 >

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 34 件(鼻咽頭ぬぐい液 32 件、ふん便 2 件)、眼科定点 3 件(結膜ぬぐい液)、基幹定点 4 件(鼻咽頭ぬぐい液 3 件、ふん便 1 件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎 16 人、RSV 感染症 6 人、下気道炎 5 人、インフルエンザ 2 人、胃腸炎 2 人、手足口病 1 人、アデノウイルス感染症 1 人、伝染性単核症 1 人、眼科定点は流行性角結膜炎 3 人、基幹定点は不明熱、無菌性髄膜炎、気道炎、胃腸炎各 1 人でした。

11月10日現在、小児科定点のRSV感染症患者3人からRSウイルス、インフルエンザ患者2人と上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、下気道炎患者1人とアデノウイルス感染症患者1人からアデノウイルス(型未同定)、上気道炎患者1人からコクサッキーウイルスB(CB)4型、下気道炎患者1人からCB2型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、胃腸炎患者1人からワクチン由来のポリオウイルス2型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者4人と下気道炎患者2人からライノウイルス、RSV感染症患者3人からRSウイルス、下気道炎患者1人からエコーウイルス25型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### < 細菌検査 >

10月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が1件で消化器系病原菌は検出されませんでした(表)。

基幹定点からは菌株受付が7件、定点以外の医療機関からは菌株が8件でした。そのうち、基幹定点か

ら、腸管出血性大腸菌O157:H7、VT2、腸管血清型大腸菌が2件(O127a:H21、O18:H7)検出されました。また、赤痢菌(*S. sonnei*、相)が1件検出されました。

定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌5件(O157:H-、VT1&2、O157:H-、VT1、O157:H7、VT1&2、O157:H7、VT2、O型別不能、VT2がそれぞれ1件)、*S. sonnei* 相が2件および *Salmonella Infantis*が1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの5件で、A群溶血性レンサ球菌が2件から検出されました。その血清型はT25、T型別不能でした。

表 感染症発生動向調査による病原体調査(10月) 細菌検査

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	10月			2010年1~10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1	2		4	5
腸管病原性大腸菌		2			8	
腸管出血性大腸菌		1	5		4	52
腸管毒素原性大腸菌				1	3	
チフス菌						1
パラチフスA菌					1	1
サルモネラ			1	2		1
カンピロバクター				1		
不検出	1	3	0	14	56	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	10月			2010年1~10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				25	1	1
T1						
T4				3		
T6				1		
T12				5		
T13				1		1
T25	1			2		
T28				9		
T B3264				2		
型別不能	1			4		
G群溶血性レンサ球菌				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					2	
バンコマイシン耐性腸球菌						3
髄膜炎菌						1
Streptococcus suis						1
Corynebacterium ulcerans					1	
不検出	3			26		10

\* 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【検査研究課 細菌担当】